

今から十数年前の暮れ、カーラジオから偶然流れてきた音楽に思わず車を道ばたに止めて聞き入ってしまいました。それはこれまでに聴いたことのない音楽でした。ハーブの華やかな音なのだけれど云く言い難い哀愁が漂い、はじめてきくのに何故か懐かしさを感じました。その頃はまだインターネットを利用していませんでしたから、すぐにNHKに電話してたずねたところ、それがルシア塩満さんのアルパだと知ったのです。早速CDを買い求め暫くは毎日聴いていました。その数年後にこのかんのん劇場をはじめたのですが、いつかはルシアさんに出演していただきたいとずっと願ってきました。昨春はじめてライブでお目にかかりお願いしたところ、この申し出を快諾していただきまして、この度ようやくその夢が実現できる運びとなったのです。どうか一人でも多くの方に、この素晴らしい音楽を心ゆくまで味わっていただきたく、ご案内申し上げます。

2011年9月 かん のん 劇場支配人 見城宗忠

【出演者プロフィール】

◇ルシア塩満

長い間日本でパラグアイ音楽を紹介し、日本のアルパ界を常にリードする第一人者。パラグアイの伝統的な力強い奏法と、日本人女性の繊細な感性を持ち合わせる。パラグアイ・アルパ協会 日本代表委員 日本音楽著作権協会 会員 日本アルパ協会主宰



福岡県生まれ。幼い頃にパラグアイで生活したことでアルパを知ることになる。高校卒業後、今は亡きアルパの第一人者クリスティーノ・バエス・モンヘス氏の指導を受けるためパラグアイへアルパ留学する。以後、幾度かのアルパ留学を重ね、恩師から「クリスティーノ二世」と折り紙をつけられ、後継者と呼ばれるまでになる。プロ奏者としてのデビューは1975年になる。

フォルクローレの世界的な音楽祭『コスキン・フェスティバル』(アルゼンチン)には過去5回出場し、その模様はテレビ中継もされる。また、パラグアイをはじめボリビア、チリ、ベネズエラでも数々のコンサートに成功させるなど実力は海外でも高く評価されている。2007年にはパラグアイで行われた『第1回世界アルパ・フェスティバル』にアジア代表として招待され演奏、満員の観客から喝采を浴びる。2008年にパラグアイ・アスンシオン市にある「パラグアイ日本文化センター」の20周年記念式典に招かれ演奏する。2010年9月、アスンシオン市にある「フランス文化センター」で自己の演奏活動35周年のコンサートを行う。

国内では各地でのコンサート活動、ラジオやテレビ出演を通じて、長年にわたりパラグアイ音楽を紹介する一方、自己のCD制作にも力を注ぎ、これまでに8枚のCDを制作。それらのCDの中には「日本プロ音楽録音大賞優秀録音賞」(朝日新聞推薦盤)などの作品がある。

日本とパラグアイの文化交流の担い手として、これまでに四代のパラグアイ大統領の御前演奏を任される。また日本での長年にわたるパラグアイ音楽と文化の紹介に貢献した功績が認められて、1995年9月にパラグアイ共和国から【文化功労賞】が授与される。また翌1996年3月には東京都北区から【区民文化奨励賞】が授与される。2004年3月、日本人の音楽家としては初めてパラグアイ共和国から【国家功労勲章・コマンドール位】を受勲する。

2007年3月、ミュージック・ペンクラブ・ジャパンから東京文化会館小ホールで行ったコンサートに対して【音楽賞】[日本人アーティスト:コンサート・パフォーマンス部門最優秀賞]が贈られる。演奏活動のかたわらアルパ教室を開設するなど後進の指導育成にも尽力している。また南米の恵まれない子供たちへの支援チャリティーや滞日外国人への支援活動に音楽を通じて活動するなど、チャリティー活動にも積極的に取り組んでいる。

◇高橋マサヒロ

フォルクローレ・グループ「グルーポ・カンタティ」や「ルス・デ・ナスカ」の一員として演奏活動を続けた後、1994年にはフォルクローレの本場ボリビアで念願のレコーディングを果たし、そのCDは地元のマスコミの間で注目される。1995年にケーナとサンポーニャの新たな音楽性・可能性を追求するために違う音楽ジャンルで活動する奏者とグループを結成し演奏活動を始める一方、1996年、2005年、2008年にCDを自主制作する。



◇寺澤むつみ

高校時代にフォルクローレと出会いチャランゴ、ギターを始める。大学在学中はマンドリンクラブに所属しコンサートマスターを務める。1991年よりフォルクローレ弦楽器奏者としてプロ活動に入る。「MAYA」を始め国内外の様々なミュージシャンと共演。フォルクローレのみならずラテンやタンゴなどの音楽にも精通し、高度な音楽テクニックでステージを盛り立てる。ギター、チャランゴのほか数々の中南米弦楽器を操る名手として活躍。



■制作協力 オフィス・アルペジオ

115-0044 東京都北区赤羽南 2-10-15 ニュー赤羽ハイツ 206

Tel & Fax : 03(3902)5355

E-mail arpeggio@minos.ocn.ne.jp URL http://www.arpalucia.com